

発言No. 6

受付No. 13

令和6年2月15日

9時58分 受付

一般質問発言通告書

議席番号 2番

氏名 村木勝也

答弁を求める者

(○をつける)

市長

教育長

監査委員

選挙管理委員会委員長

農業委員会会長

固定資産評価審査委員会委員長

公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1 令和6年度の防災をはじめとした危機管理について

(1) 「令和6年能登半島地震から2か月 改めてお聞きしたいこと」について

- ① 令和4年9月定例会議でお聞きした、「浜田市地域防災計画書に地区防災計画の規定を盛り込む予定」を伺う。
- ② 令和4年12月定例会議でお聞きした、「訓練の事前は何を話し、決めておくことが必要かといった手引書や話し合いの支援は、どのようにされるのか」を伺う。
- ③ 令和4年6月及び令和5年6月の定例会議でお聞きした、「都市公園(運動公園)施設における避難について、公園内一斉に情報が伝達できる放送設備の整備」を伺う。
- ④ 令和4年12月及び令和5年6月の定例会議でお聞きした、「防災公園ではないものの、災害時において多くの避難者が見込まれる。必要な防災機能の整備の検討状況(トイレ環境整備のスケジュール含む。)」を伺う。
- ⑤ 令和4年12月定例会議でお聞きした、「指定緊急避難場所、指定避難所及び福祉避難所等において、防災の視点から再生可能エネルギー導入の考え」を伺う。
- ⑥ 令和5年9月定例会議でお聞きした、「災害時における学校給食施設の利用を関係部署と事前協議をしておく必要性」を伺う。
- ⑦ 6月の浜田市総合防災訓練において、令和5年9月定例会議でお聞きした、「物資輸送や医療救護等の訓練の内容」を伺う。

2 三桜酒造跡地活用等の対応方針について

(1) 整備にあたっての基本的な考え方について

- ① 対応方針として跡地に「屋外広場」と「多目的ホール」を整備し賑わいの場となることと、三桜酒造跡地の公共活用に関する提言書の「2. 検討にあたって配慮した事項」との関係伺う。

一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 21 番 氏名 川神 裕司

答弁を求める者

 市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長

(○をつける)

 農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1 政策決定におけるプロセスのあり方と組織改革について

(1) 政策決定に至るまでのプロセスと住民意見反映について

- ① 今までの政策立案から実行までのプロセスの中で、庁内プロジェクトチームや外部検討委員会等様々な検討手法がとられているが、手法選択の基準について問う。
- ② 本来計画立案時から市民の意見を反映させるシステムが必要なはずだが、最近の方針決定がなされた後に市民へ情報提供されているのではないか。市民主体のまちづくりを進めるためにはいかに市民の視点を反映させる仕組みを作るかだが所見を問う。

(2) 政策決定におけるコンサルの活用実態と活用の考え方について

- ① 今まで政策決定や方針を模索するためのアンケート調査等、相当数のコンサル活用があったと認識している。最近のコンサルを活用した案件と金額について実態を問う。
- ② 政策立案等においてコンサルを活用するか否かはどのように決定しているのか。コンサル活用の経費は相当高額と認識しているが、その活用基準に関しての考え方を問う。

(3) 住民意見を反映し職員のモチベーションが上昇する組織改革について

- ① 市政発展のための政策立案・実現のためには市民の意見反映が円滑に行われる仕組み作りは当然、職員のモチベーション向上が極めて重要である。しかしながら本年度を振り返っても中堅職員の離職が目立つがこれをどう受け止めているか市長の所見を問う。
- ② 職員のモチベーション低下の要因については、定量的な問題として「過度の仕事量」があるのではと考えられ、過度の仕事量を是正するためには業務改善が重要である。特に全庁的に効果が及ぶ業務改善としては会計事務があるのではないかと考える。会計事務の業務改善の取組状況を問う。
- ③ 職員のモチベーション低下の定性的な問題として「職員の意見反映」があり、政策・施策に職員の経験や所見を活かすことができる組織改革はモチベーションアップに寄与するのではと考える。「職員提案制度」等により職員の意見を吸い上げると共に、風通しの良い組織への改革を目指すべきと考えるが所見を問う。

2 今後の芸術文化活動の推進について

(1) 浜田市の誇る文化資本の活用の現状と取組について

① 石見神楽、石州半紙、北前船寄港地保存活用の取組状況について

石見神楽・石州半紙・北前船寄港地はいずれも観光戦略としても芸術文化の観点からも極めて重要なコンテンツである。インバウンド施策推進の観点からも、それぞれの保存活用戦略は計画的に進行しているのか市長の所見を問う。

② 「ふるさと教育」推進のため「石見神楽」の教育カリキュラムへの導入について

現在石見神楽振興において、石見神楽蛇胴以外の神楽ものづくり技術に対する文化財指定早期指定や各神楽団体の抱える後継者育成問題等、課題は山積である。実は石見神楽振興議員連盟の事業として、エリアごとに神楽団体へのヒアリングを精力的に実施してきた。その中で若手から、様々な意見が出されたが、浜田愛を養うためにも子供たちの教育に石見神楽の要素を取り入れるべきとの意見が多かった。石見神楽の教育カリキュラムへの導入は有効であると考えますが教育長の所見を問う。

(2) 「郷土資料館・神楽伝承施設」の整備方針と課題について

① 郷土資料館と石見神楽伝承施設の一体的整備の政策形成の過程について

郷土資料館の建て替え事業として既存の施設とのコラボの方針は認識しているが、今後検討に上がる石見神楽伝承館との合築の方針は予想外である。合築に至った検討経過を問う。

② 施設整備と設置場所に関する最終決定に伴う決定プロセスの可視化について

現在市民は郷土資料館・神楽伝承館合築施設として、三桜酒造跡地設置が濃厚ではないかと感じている。設置場所は今後の検討を踏まえ決定とのことだが、今後決定に関しては、市民の意見の反映と決定経緯の市民への可視化は大切なことと考えるが市長の所見を問う。

一般質問発言通告書

議席番号 4番

氏名 三浦大紀

答弁を求める者
(○をつける)

○市長 ○教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長
農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

こども基本法が施行されもうすぐ1年を迎える。それに掲げられた理念に則って、昨年末、こども大綱が閣議決定された。その中で、政府の施策においては、こども・若者が「権利の主体」であることを明示するとともに、こどもや若者・子育て当事者と「ともに進めていく」と書かれている。当市において、その考え方が遵守されているか。その状況について、以下質問する。

1、 こどもの権利について

① これについて、市長はどのように考えておられるか。

2、 意見の表明について

① こどもや若者が意見表明できているかどうか、その実態を把握しているか。

② 各部局における政策づくり等において、こどもや若者との接点はどの程度もたれているか。

③ こどもや若者のまちづくりへの参画や意見反映を進める上での課題と、その解決に向けて必要な取組みはどのようなものと考えているか。

3、 浜田市子ども・子育て支援事業計画について

① 同計画はどのような位置付けのものか（こども関連の各事業との関連性を含めて）。

② 来年度の更新にあたって、こどもの参画をどのように担保するか。

③ 子ども計画の策定についてはどのように考えているか。

④ 浜田市総合振興計画との関連性はどのように担保されるか。

以上

一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 11 番

氏名 小川 稔 宏

答弁を求める者
(○をつける)

(市長) (教育長) 監査委員 選挙管理委員会委員長
農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1. 市内における I T 関連企業の現状と将来展望について

I T 企業は人材不足が深刻で 2030 年には国内で 79 万人の技術者不足になるともいわれている。市でも I T 企業の誘致を進めてきているが、県東部に比べて立ち遅れている感がある。製造業における人材不足のなかデジタルトランスフォーメーション (D X) 推進は若者の雇用創出や定住にもつながることからもさらに加速する必要がある。

- ① I T 関連事業の起業、新規参入、誘致の実績と事業規模などの現状について伺う。
- ② 浜田の地域性を生かした事業の展開では先進地域との役割分担と連携が必要と思われるが市としての考え方について伺う。
- ③ I T 事業推進に向けた環境整備、事業者支援も含めた将来展望について伺う。

2. 「聞き取り困難症 (L i D)」への対応策について

小中高生の 1 % に症状がみられる「聞き取り困難症 (L i D)」(以前は「聴覚情報処理障害 (A P D)」といわれていた) については親も含め周囲が気づきにくいといわれる。診断可能な医療機関も少なく診断基準も確立されていない。見過ごせば学習活動やコミュニケーションへ悪影響を及ぼす可能性もあり、いじめ・不登校の原因にもなりかねない。

- ① 聴力検査では異常がないのに、聞き取れない、聞き間違いが多い児童生徒が一定数いることから現状把握をすみやかに行うべきであるがその認識について伺う。
- ② 「聴覚情報処理障害 (A P D)」では「聞き取ることが苦手です」と書かれたコアラの「A P D マーク」等があるが、こうしたツールの活用への考えはないか伺う。
- ③ 教育の機会均等の観点から合理的配慮のための研究や教職員研修等を実施し、国・県へも対応策、支援策を早期に求めるべきだと思うが市長の考えを伺う。

3. 新規風力発電事業に関する懸念について

長見町、鍋石町で計画されている風力発電事業は 2025 年 12 月着工に向けて環境影響評価の準備書が出されている。方法書段階より基数は減ったが風車は大型化している。

- ① 再生可能エネルギーの発電量過剰による出力制御が行われているが、電力の需給状況と今後の電力事業の見通しについて伺う。
- ② 美川水源への影響についてはどのような方法によって確認されたのか伺う。
- ③ 発電会社が何らかの事情で営業廃止、撤退する場合の原状回復の考え方を伺う。

一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 1 番

氏名 肥後 孝俊

答弁を求める者
(○をつける)

市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長
農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

人口減少、中山間地域交通空白化、港湾機能老朽化、働き手不足と課題山積で、条件不利地域といえる浜田市ですが、視点を変えれば課題先進地といえる地域と私は捉えています。なぜならば高齢化率で例えると日本の近い未来が、浜田市の今の状況と似通るからであります。

そこで、浜田市で様々な課題を解決する手法、手段を確立すれば他の地域にも波及し日本全体の地域力が向上するものと考えます。石見の中核都市といわれた浜田市を今こそ再興する初年度としていこうではありませんか。歴史を紐解けば石見人は新しいものと古くからのものを融合させ、生活に取り入れながら独自の文化を創り出していたのです。そのような浜田市が今のままではいけない、良くしたいとの思いで、市の取組みについて質問していきます。

1 人口減少は不可避との前提で、人口減少から発生する問題について

- ① 公共交通サービス縮小で、交通過疎地が増加するが改善策について伺う
- ② コンパクトシティ政策について浜田市での取組みについて伺う
- ③ 情報通信技術(ICT)を使いこなす必要性が高まる時代に、学校でのデジタル・シティズンシップ(DC)教育が注目されているが、浜田市での取組みについて伺う
- ④ 浜田市内の閉塞感が若者世代の都市部への流出の主要因と考えるが、対策について考慮されているのか伺う

2 浜田港における産業振興について

- ① 浜田港給油船老朽化に対する支援策について伺う
- ② 船上で採れた魚種を入力し売り上げが見える化出来る「漁業支援アプリ」導入に

ついて検討されているのか伺う

- ③ 浜田沖洋上風力発電の可能性と国・県・市の連携について伺う

3 農業振興について

- ① 指定野菜に 50 年ぶりに追加されたブロッコリーの市内生産量の現状と今後について伺う
- ② 市内生産の農産物の輸出量と今後の展開について伺う
- ③ 農地の見える化で、土壌に最適な肥料の使用量や農地の荒れ具合の管理、作付け状況把握が可能になるが、市域が広く高低差のある浜田市に有効活用できると考えるが所見について伺う